



せん。

### 繊細な子どもの心理

さて、ここで問題です。皆さんに未成年の子どもがいるとします。そんなときに「あなたはがんです」と言われたら、お子さんに自分の病気のことをどう話しますか？

日本人の2人に1人が生涯でがんになる時代。がんと診断される頻度は、50代から増加し始め、高齢になるほど高くなります。

しかし、働き盛りの若いうちがんにかかり、未成年の子どもを持つ人も少なくあります。



久保 佳子

一昔前は、心配をかけるかわいそう〜と、子どもに本当のことを話さないことが多かったようです。しかし最近、子どもに病気のことを話すことは子どもの成長にとって大事なことでとされています。たとえ親ががんであることを隠しても、子

緩和ケア内科部長 専門は緩和医療

## がん患者の子どものケア



どもは親の変化には敏感で、親に何か悪いことが起こっていると感じ取ります。さらに、一人で悪い想像を膨らませ、より大きな不安を持ってしまいかもし

れません。親に起こった悪いことは、自分が悪いことをしたのが原因

「三つ目」

では、どのように話

したらいいのでしょうか。がんになった親とその子どもをサポートする「Hope Team」は、親ががんであることを子どもに話すときに「三つのC」が重要だとしています。

「三つ目」は「誰のせいでもない(not Cause)」と伝えること。がんという病気になったのが誰のせいでもないことをきちんと知らせて、子どもが「自分のせいだ」と思い込まないようにしてあげるということです。

「二つ目は「がん(Cancer)」という言葉を使うこと。病気の

などの曖昧な表現をするとき、子どもは独自の考えや想像を働かせ、より大きな不安や混乱を来すことになりかねないからです。

「三つ目は「伝染しない(not Catchy)」と伝えること。風邪やはしかなど違い、伝染しないとはっきり伝えることが重要です。

もちろん、子どもに話すタイミングは親が受容してからですが、子どもも家族の一員として、親の闘病を支える輪の中に入れてあげてください。

誰の身にも起こりうるそのときのために、このことを頭の隅に置いておいてください。

## 病気を子どもにどう伝えるか